（別紙様式４）

令和6年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大阪ハイテクノロジー専門学校	昭和62年4月1日	橋本　勝信	〒　532-0003 （住所）　大阪市淀川区宮原1-2-43 （電話）　06-6392-8119
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人　大阪滋慶学園	昭和62年4月1日	浮舟　邦彦	〒　532-0003 （住所）　大阪市淀川区宮原1-2-43 （電話）　06-6392-8119

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
医療	医療専門課程	臨床工学技士科（昼間部）	平成 7(1995)年度	－	平成26(2014)年度

学科の目的	医師の指示のもとに、チーム医療の一員として生命維持管理装置を中心とする医療機器の操作・保守・管理・点検を行うことができる実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	臨床工学技士・第2種ME技術実力検定 43名入学　37名卒業　退学3名　（退学率7．0%）

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,435 単位時間 単位	1,740 単位時間 単位	945 単位時間 単位	750 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
120 人	94 人	1 人	1 %

就職等の状況			
	■卒業者数（C）	: 37	人
	■就職希望者数（D）	: 29	人
	■就職者数（E）	: 29	人
	■地元就職者数（F）	18	人
	■就職率（E/D）	100	%
	■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	62	%
	■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	78	%
	■進学者数	1	人

■その他

8名は国家試験不合格により、卒業後、月2回ほど本校の学習サポートを

（令和　　5 年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和5年度卒業生）

大阪大学医学部附属病院、大阪警察病院、大阪労災病院、大阪府済生会中津病院、京都第二赤十字病院、三菱京都病院、奈良県立医科大学附属病院、大津市民病院、宇治徳洲会病院、岸和田徳洲会病院、ベルランド総合病院、府中病院、みどりヶ丘病院、なにわ生野病院、高井病院、東宝塚さとう病

第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　一般社団法人 専門職高等教育質保証機構　受審年月：　平成31年2月　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ　https://qaphe.com/result/techgraduate/osaka-hightech/
当該学科のホームページURL	https://www.osaka-hightech.ac.jp/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	3,435 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	255 単位時間
うち必修授業時数	3,435 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	270 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	255 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	180 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位
うち必修授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	4 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		6 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	5 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

国家試験系の課程として、基本的なカリキュラムは、学校養成施設指定規則に準じるが、医療技術は年々進歩しているため、実習内容や演習系授業、卒業（課題）研究、キャリア教育など比較的調整が可能な授業スタイルに関してはその委員会内容を参考としている。特に卒業（課題）研究に関しては、産学連携の要となる授業のため、その内容に関しても教育課程編成委員会のご意見をいただき対応している。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園　教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園　教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたっては臨床工学技士科の学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
橋本　勝信	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
福士　暁也	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
安達　隆之	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
矢野　昌人	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
井上　佳子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
鈴木　次郎	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
川村　智広	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
藤江　洋志	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
澤田　正二	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
泉谷　信行	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
関谷　俊範	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
尾沢　怜子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
上田　忠佳	物産アニマルヘルス株式会社開発本部 池田動物細胞医薬センター　主席部員	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
永井　慎	NPO法人　日本バイオ技術教育学会　理事 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
赤澤　夏郎	株式会社プレンプロジェクト　代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
鈴木　謙三	マテック八尾（八尾経営・技術交流会）会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
影石　言光	滋賀県運動・スポーツ実施率向上検討委員会委員	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
中武　大輔	株式会社　サップス	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
田村　智雄	公益社団法人　大阪府柔道整復師会　淀川支部	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
乾　紘	株式会社GENKI	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
尾崎　卓宏	ホリスティックメディカルジャパン　代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
志和　輝彦	有限会社　J-RADIANCE かがやき整骨院　代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
丹波　徹二	公益社団法人　大阪府鍼灸師会　理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
嶋田　琢磨	しまだ鍼灸訪問治療院	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③

杉浦　正人	関西医科大学香里病院　臨床工学技士	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
宮本　哲豪	一般社団法人　大阪府臨床工学技士会理事理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
小嶋　宏典	社会医療法人　祐生会　みどりヶ丘病院医療技術部　臨床工学課　課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
徳永　政敬	一般社団法人　兵庫県臨床工学技士会　理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
村川　圭三	国立研究開発法人国立循環器病研究センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
藤田　秀樹	公益社団法人　大阪府診療放射線技師会　副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	①
氏浦　亜由美	マイヘルスクリニック 心斎橋院　放射線科　技師長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	③
福西　康修	公益社団法人　日本放射線技術学会　近畿支部　幹事	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回の実施（6月・1月）

（開催日時（実績））
第1回　令和6年6月27日実施　18:30～20:10
第2回　令和6年1月18日　18：30～20：10
第1回　令和5年6月30日実施　18:15～20:10

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
手術室での「清潔介助業務」など、今後のタスクシフト・シェアのなかで求められる技術指導について、新カリキュラムにおいては、「臨床支援技術学」で清潔介助業務を、「基礎今後技術」で患者移動、患者観察、看護記録に取り組み、授業は看護師のライセンスを持った講師に依頼している。医療人としての倫理意識の向上、コミュニケーション能力の向上に関しての教育についての取り組みについては、昼間部では、1年前期より「健康科学」や「キャリア実践」でグループワークを中心に進めており、「ME機器探求」ではプレゼンの指導を行い、自身の意見をまとめ、伝えるトレーニングを行っている。夜間部はタイトなカリキュラムではあるが、「医用機器安全管理学実習」でRCA分析、KYTなどのグループワークを行い、コミュニケーション能力を養っている。タスクシフト・シェアによる業務の拡大においても、医師や看護師とのコミュニケーションは重要であることを学生に伝えている。「キャリア実践」の授業では、臨床工学技士として病院で働くことについて教えるほか、その後のキャリア形成について伝えている。病院以外の出口も知ってもらい、夢を広げてもらう。新カリキュラムの臨床実習が今年の夜間部から始まる。学生の評価方法も変わり、臨床実習指導者講習会を受講した指導員が必要になるが、準備等に課題があれば情報共有したい。学生の評価が施設ごとにバラつきが出ないようにするべきだが、当面は手さぐり。臨床実習指導者講習会の受講も進んでいない施設もあるようなので、これからの対応になる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床工学技士法」に基づく所定の知識・技能を習得だけでなく、最新医療機器に関する知識や技能も習得しなければならない。「業務指針」に定められた各種業務内容を指導できる設備が整備され、かつ後進の指導に積極的である医療機関に実習を依頼している。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

臨床実習カリキュラムにおいて、計180時間の臨地での実習を行なう。主に「臨床工学技士業務指針」を参考に実習および見学を行う。実習前に提携施設と事前打ち合わせを行い、実習後は、所定の様式にて、実習内容に対する学生評価を行なっていただく。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
臨床実習	臨床工学技士の行う主たる業務（以下の4項目）について、実践的な知識を身につける事を目的とする。提携している医療機関にて「臨床工学技士業務指針」を参考に実習および見学を行う。（1）血液浄化装置実習、（2）集中治療室実習（人工呼吸器実習を含む）および手術室実習（人工心肺実習を含む）、（3）医療機器管理業務実習、（4）その他の実習。	大阪大学医学部附属病院、関西医科大学総合医療センター、国立病院機構大阪医療センター、国立循環器病研究センター、兵庫医科大学病院　など
国際臨床工学概論	海外（アメリカ合衆国）の異文化にふれるとともに、当該国での医療の現状、技術について学び、今後の臨床工学のあるべき姿について考察する。	米国　ロマリンダ大学
課題研究	臨床系、工学系と2グループに分かれて、臨床工学分野の課題テーマを選択し探求していくことで、研究の姿勢、手法を学び将来の業務等に役立てる。	関西医科大学附属病院、京都府立医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院　など
医用機器安全管理学実習	医用機器における電気的安全性及び医用ガスの安全性に関する種々のチェッカーを利用した安全管理技術について実習する。その他、過去の事故事例からシステム安全の考え方を習得する。	大正医科器械株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 臨床工学技士科専任教員として、専攻分野の業界が主催するセミナーや学会などに参加することで、常に最先端の技術・知識に触れ、時代のニーズにあった、知識・技能を持って指導できる能力の維持をおこなう。		
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第33回日本臨床工学会	連携企業等: 公益社団法人日本臨床工学技士会
期間:	2023年7月21日～2023年7月23日	対象: 臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為	
研修名:	第29回近畿臨床工学会	連携企業等: 一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会
期間:	2023年12月9日～2023年12月10日	対象: 臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為	
研修名:	第41回　日本体外循環技術医学会　近畿地方会大会	連携企業等: 日本体外循環技術医学会 近畿地方会
期間:	2023年6月3日～2023年6月4日	対象: 臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	第11回 医療機器安全管理セミナー	連携企業等: 大阪府臨床工学技士会
期間:	45171	対象: 臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得	
研修名:	ME周術期ウィークエンドセミナー	連携企業等: 大阪府臨床工学技士会
期間:	2023年11月10日	対象: 臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得	
研修名:	第14回 災害対策セミナー	連携企業等: 大阪府臨床工学技士会
期間:	2024年1月21日	対象: 臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得	

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第34回日本臨床工学会	連携企業等:	公益社団法人　日本臨床工学技士会
期間:	2024年5月18日～5月19日	対象:	臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		
研修名:	第69回日本透析医学気合学術集会	連携企業等:	一般社団法人　日本透析医学会
期間:	45450	対象:	皿液浄化に関わる医療従事者
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		
研修名:	第30回近畿臨床工学会	連携企業等:	一般社団法人　和歌山県臨床工学技士会
期間:	2024年11月23日～24日	対象:	臨床工学技士
内容	臨床工学技士の技術・知識習得の為		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	2024年度一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会教員研修会	連携企業等:	一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会
期間:	2024年6月1日～6月2日	対象:	臨床工学技士養成校教員
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		
研修名:	第 42 回日本体外循環技術医学会近畿地方会大会	連携企業等:	日本体外循環技術医学会 近畿地方会
期間:	2024 年 6 月 29 日～30 日	対象:	臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		
研修名:	第12回 医療機器安全管理セミナー	連携企業等:	大阪府臨床工学技士会
期間:	45466	対象:	臨床工学技士
内容	授業指導に役立つ臨床の最新知識の習得		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることでもある。
本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
（2）学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報
（3）教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配
（4）学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
（5）学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環
（6）教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
（7）学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
（8）財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
（9）法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
（11）国際交流	国際交流の取組み

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等行っている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
福永　かほる	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	保護者代表
福菅　英子	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	保護者代表
久保　みのり	近隣関係者（北中島社会福祉協議会）	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	地域代表
高橋　絵吏	大阪信愛学院中学校高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	高等学校
胡本　晃敏	生命工学技術科卒業生 上野佐藤株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	卒業生代表
木村　政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	卒業生代表
小西　正和	ナカライテスク株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員
坂本　俊雄	一般社団法人　i-RooBO Network Forum	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員
臼井　達矢	学校法人　大阪成蹊大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員
尾藤　何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員
堀口　正剛	公益社団法人　大阪府鍼灸師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員
山本　桂	一般社団法人　大阪府臨床工学技士会（医療法人　蒼龍会　井上病院）	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員
難波　昭典	八尾市立病院　放射線科	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　））

URL：　https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure
公表時期：　2024年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検･自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革,教育システムと教育
（2）各学科等の教育	学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
（3）教職員	教員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義･業界講演、海外研修、卒業研
（5）様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設･環境
（6）学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮
（7）学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート、修学支援新制度対応
（8）学校の財務	法人財務状況
（9）学校評価	自己点検･自己評価と学校関係者評価、第三者評価
（10）国際連携の状況	国際交流
（11）その他	社会貢献･地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL:　https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure

公表時期:　令和6年7月31日

授業科目等の概要

	#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			数理科学の基礎	臨床工学技士の専門基礎分野を学ぶために必要な数学、物理学の基礎知識を習得する。	1前	30	1	○	△		○		○		
2	○			基礎数学	数学基礎、代数学、微分積分学その他臨床工学に必要な数学の基礎知識を習得する。	1前	30	1	○	△		○		○		
3	○			数学演習	数学基礎で学んだ内容を演習を通して理解を深め、数学的知識を養う。	1前	30	1		○		○		○		
4	○			基礎物理学Ⅰ	力と運動、変形する物体、振動と波動、熱と熱力学などを中心に、医用機械・生体物性工学などの専門へつなぐための基礎知識を習得する。	1前	30	1	○	△		○		○		
5	○			基礎物理学Ⅱ	力と運動、変形する物体、振動と波動、熱と熱力学などを中心に、医用機械・生体物性工学などの専門へつなぐための基礎知識を習得する。	1後	30	1	○	△		○		○		
6	○			基礎化学	医学を学ぶために必要な基礎知識として、無機化学、有機化学の基礎知識を習得する。	1前	30	1	○	△		○			○	
7	○			科学英語	科学を題材に文法の簡単な復習と独特の言い回しを学び、単語力、読解力の充実と英語科学論文の読み方、書き方を習得する。	1前	30	1	○	△		○		○		
8	○			英語会話	グローバル社会における基本的なコミュニケーション言語である英語について、日常会話を中心に学び、海外研修に活かせることができる。	1後	30	1	○	△		○			○	
9	○			医学英語	臨床医学からの題材を中心として、病院用語、略語、病歴、診療所見などの英文解釈と医学知識を同時に習得する。	2前	30	1	○	△		○		○		
10	○			心理学	心理学の基礎知識を学ぶとともに、自分の心の働き、患者の心の世界を知り、患者との良い人間関係を形成するための手法を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
11	○			医療社会学	人間と社会、集団と社会、文化と社会そして医療と社会について学び、社会人として必要とされる教養を身につける。	1後	30	2	○			○			○	
12	○			人間関係論	社会における人間関係、人間関係の存在的意義などを含めて、コミュニケーションの方法などを習得する。	2前	30	2	○			○			○	
13	○			医療倫理学	医療を中心とする道徳的判断の対象、義務、意志の自由と責任について、具体的な例で生命倫理の知識を習得する。	2後	30	2	○			○			○	
14	○			健康科学	健康保持の手法、体力とトレーニング方法を習得し、基本的な救急処置ができるようになる。	1前	30	1	○	△		○		○		
15	○			人体の構造及び機能Ⅰ	骨、筋肉、神経系、呼吸器系、消化器系、循環器系、内分泌器系、感覚器系、泌尿器系などの構造と機能などの知識を習得する。	1前	60	2	○	△		○			○	
16	○			人体の構造及び機能Ⅱ	臨床工学技士の業務に特に関わりの深い呼吸器系、循環器系、泌尿器系、消化器系などの構造と機能についての知識を習得する。	1後	30	1	○	△		○			○	
17	○			人体の構造及び機能Ⅲ	疾病と生理機能（呼吸、循環、代謝、神経、筋）との関連および検査法、その他についての知識を習得する。	2前	30	1	○	△		○			○	
18	○			基礎医学実習Ⅰ	実習を通じて、人体の構造および機能、病理学概論を構造的、機能的、形態的に理解を深めることができる。	1後	30	1			○	○		○	○	
19	○			基礎医学実習Ⅱ	実習を通じて、人体の構造および機能、病理学概論を構造的、機能的、形態的に理解を深めることができる。	1後	30	1			○	○		○	○	
20	○			基礎医学演習	解剖生理学を総復習し、臨床工学技士として必要な医学的基礎知識を応用できるようにする。	3後	30	1		○		○		○		
21	○			医学概論	医学の歴史、医療技術の進歩の概要、特に医療機器の歴史的変遷、医療従事者の倫理、将来の展望についての知識を習得する。	1後	15	1	○			○			○	
22	○			公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認識し、一般衛生、労働衛生および疾病予防など公衆衛生の分野に必要な知識を習得する。	1後	15	1	○			○			○	
23	○			生化学	生体における代謝の基礎および疾病と機能検査との関連、その他についての知識を習得する。	1後	30	2	○			○			○	
24	○			薬理学の基礎	臨床で使用される薬剤の作用機序などを中心に、呼吸器系、循環器系、脳神経系薬剤および利尿薬、抗生物質等についての知識を習得する。	3後	15	1	○			○			○	
25	○			病理学概論	主な疾病の原因および経過、予後、転帰等、特にＭＥ機器の対象となる疾患の病理学像の総論および検査の基礎知識を習得する。	1後	30	2	○			○			○	
26	○			臨床検査概論	一般検査、血液検査、生化学検査、免疫学的検査、微生物学的検査、その他検査データの解釈についての知識を習得する。	3後	15	1	○			○			○	

27	○			基礎看護技術	看護学の基本的かつ主要な概念や看護理論、または看護を行うにあたって必要となる基礎看護技術の知識を習得する。	3前	15	1	○			○			○	
28	○			応用数学	微分方程式、フーリエ級数とフーリエ変換、ラプラス変換など臨床工学に応用可能な数学についての知識を習得する。	1後	30	1	○	△		○		○		
29	○			電気工学Ⅰ	直流回路、交流回路、過渡現象、電力装置など回路理論を中心に電気工学の基礎知識を習得する。	1前	30	1	○	△		○		○		
30	○			電気工学Ⅱ	直流回路、交流回路、過渡現象、電力装置など回路理論を中心に電気工学の基礎知識を習得する。	1後	30	1	○	△		○		○		
31	○			電磁気学	静電気、定常電流、磁場と電流、電磁誘導、電磁波、誘電体、磁性体など電磁気現象の基礎についての知識を習得する。	1後	30	1	○	△		○			○	
32	○			電気工学演習	電気工学の講義で学んだことを定着させるために、医療機器に関連の深い内容についての知識を習得する。	1後	30	1		○		○		○		
33	○			電気工学実習Ⅰ	電気工学の講義で学んだことについて、実験を通して理解を深めるとともにテスター、オシロスコープ等の電気計測機器が使えるようになる。	1前	30	1			○	○		○		
34	○			電気工学実習Ⅱ	電気工学の講義で学んだことについて、実験を通して理解を深めるとともにテスター、オシロスコープ等の電気計測機器が使えるようになる。	1前	30	1			○	○		○		
35	○			医用電気工学	電気理論、電気回路を総復習し、臨床工学技士として必要な電気工学の基礎知識を応用できるようにする。	3後	30	1		○		○		○		
36	○			電子工学Ⅰ	電子物性の基礎から各種電子回路素子、および各種増幅回路、発振回路などのアナログ回路の知識を習得する。	1後	30	1	○	△		○		○		
37	○			電子工学Ⅱ	各種マルチバイブレータ、論理回路、カウンタ、Ａ／Ｄ変換、Ｄ／Ａ変換などデジタル回路の知識を習得する。	2前	30	1	○	△		○		○		
38	○			電子工学実習Ⅰ	電子工学の講義で学んだアナログ回路を中心に実体験を通してアナログ回路を理解出来るようになる。	2前	30	1			○	○		○		
39	○			電子工学実習Ⅱ	電子工学の講義で学んだデジタル回路について実体験を通して理解を深め、デジタル回路を理解出来るようになる。	2前	30	1			○	○		○		
40	○			医用電子工学	通信工学、オプトエレクトロニクスおよび信号処理を含め、電子工学の総復習し、臨床工学技士として必要な電子工学の基礎知識を応用できるようにする。	3後	30	1		○		○		○		
41	○			医用物理学	基礎物理学で学んだ内容が、医療の現場でどのように活用されているのかを学び、機械工学への導入知識とする。	2後	30	1	○	△		○			○	
42	○			機械工学	力学の基礎、材料力学、流体力学など医用機械に必要な基礎知識を習得する。	3前	30	1	○	△		○			○	
43	○			医用機械工学	生体の流体現象、波動現象、熱現象など、医用機械工学の知識を習得し、臨床工学技士として必要な機械工学の基礎知識を応用できるようにする。	3後	30	1		○		○			○	
44	○			情報処理工学Ⅰ	コンピュータの構成、原理、2進数・AD変換などの情報の表現、ハードウェア、ソフトウェア、システムの構成についての知識を習得する。	2前	30	1	○	△		○			○	
45	○			情報処理工学Ⅱ	WAN、LAN、インターネット、Webサーバ、イーサネット等のネットワークの基礎および情報セキュリティについての知識を習得する。	2後	30	1	○	△		○			○	
46	○			システム・情報処理工学演習	システム工学及び情報処理工学を総復習し、臨床工学技士として必要なシステム・情報処理工学の基礎知識を応用できるようにする。	3後	30	1		○		○			○	
47	○			情報処理実習Ⅰ	Windowsの基本操作、表計算、インターネット利用および簡単なデータベースを作成することが出来る。	1前	30	1			○	○			○	
48	○			情報処理実習Ⅱ	臨床の場で利用されるデータベースを中心に、マクロプログラムまで作成出来るようになる。	1後	30	1			○	○			○	
49	○			医療情報学	医療における情報技術、医療情報システム、診断・治療支援システムについての知識を習得する。	3後	15	1	○			○			○	
50	○			システム工学	システム理論、インパルス応答、伝達関数など自動制御の基礎を学びフィードバック制御、シーケンス制御についての基礎知識を習得する。	3後	15	1	○			○			○	
51	○			医療統計学	データの収集・整理から確率変数と確率分布および検定・推定まで統計処理の考え方を習得し、簡単な統計処理が出来るようになる。	3後	15	1	○			○		○		
52	○			医用工学概論	生体の構造と機能と特異性および生体の物理・化学特性と特異性を中心に医学と工学の橋渡しを体系的な知識として習得する。	2前	30	2	○			○			○	
53	○			生体物性工学Ⅰ	生体における輸送現象、生体の電気特性、力学特性、熱特性、光学特性など工学的な観点から生体の特性についての基礎知識を習得する。	2前	30	1	○	△		○			○	
54	○			生体物性工学Ⅱ	生体における輸送現象、生体の電気特性、力学特性、熱特性、光学特性など工学的な観点から生体の特性についての基礎知識を習得する。	2後	30	1	○	△		○			○	
55	○			医用材料工学Ⅰ	人工材料の生体適合性、無機材料、金属材料、高分子材料など生体の特性と人工材料についての基礎知識を習得する。	2後	30	1	○	△		○			○	

56	○			医用材料工学Ⅱ	人工材料の生体適合性、無機材料、金属材料、高分子材料など生体の特性と人工材料についての基礎知識を習得する。	2後	30	1	○	△		○			○	
57	○			生体物性材料工学演習	生体物性工学と医用材料工学の知識を復習し、臨床工学技士に必要な知識として応用できるようにする。	3後	30	1		○		○		○		
58	○			医用機器学概論Ⅰ	医用機器の適用、生体計測・監視用機器、治療用機器、生体機能代行補助機器、その他の構成と原理について幅広く習得する。	1前	30	1	○	△		○			○	
59	○			医用機器学概論Ⅱ	医用機器の適用、生体計測・監視用機器、治療用機器、生体機能代行補助機器、その他の構成と原理について幅広く習得する。	1後	30	1	○	△		○			○	
60	○			生体計測装置学	計測誤差、信号と雑音、単位などの計測論の習得と、生体情報の計測についての知識を習得する。	2後	30	1	○	△		○			○	
61	○			臨床検査・診断機器学	循環器系、神経・筋系、呼吸器系計測器、医用画像機器、生化学分析機器等の構成と原理、保守点検技術を習得する。	3前	15	1	○			○	○	○		
62	○			放射線医療機器学	放射線の種類と特性を含め、X線画像計測、RIによる画像計測、MRIなどの医療機器についての知識を習得する。	3前	15	1	○			○	○		○	
63	○			医用治療機器学Ⅰ	電気的治療機器、機械的治療機器、手術用機器の原理・用途を始めとして最近の内視鏡機器の概要・心臓カテーテルの治療について、その他保守管理技術などを習得する。	2前	30	1	○	△		○		○		
64	○			医用治療機器学Ⅱ	電気的治療機器、機械的治療機器、手術用機器の原理・用途を始めとして最近の内視鏡機器の概要・心臓カテーテルの治療について、その他保守管理技術などを習得する。	2後	30	1	○	△		○		○		
65	○			臨床支援技術学	内視鏡検査及び内視鏡手術の実際と、心・血管カテーテル検査全般の検査、治療、臨床の手技について習得する。	3前	30	1	○	△		○		○		
66	○			医用機器学実習Ⅰ	各種生体計測装置と医用治療機器の構造と機能について理解を深め、操作実習を通して当該機器の知識を習得し、診療機器の総合的な使用と安全管理について実習する。	2後	60	2			○	○		○		
67	○			医用機器学実習Ⅱ	各種生体計測装置と医用治療機器の構造と機能について理解を深め、操作実習を通して当該機器の知識を習得し、診療機器の総合的な使用と安全管理について実習する。	3前	30	1			○	○		○		
68	○			医用機器学演習	生体計測装置と医用治療機器についての総合的な復習及び臨床工学技士に必要な診療機器の知識を応用できるようにする。	3後	30	1		○		○		○		
69	○			生体機能代行装置学Ⅰ	血液浄化装置の適切な操作と保守点検ができるようにその種類、原理・構成および適応疾患について知識を習得する。	2前	60	2	○	△		○	○	○		
70	○			生体機能代行装置学Ⅱ	体外循環装置の適切な操作と保守点検ができるようにその種類、原理・構成および適応疾患についての知識を習得する。	2後	60	2	○	△		○		○	○	
71	○			生体機能代行装置学Ⅲ	呼吸療法装置の適切な操作と保守点検ができるようにその種類、原理・構成および適応疾患についての知識を習得する。	3通	60	2	○	△		○	○	○		
72	○			生体機能代行装置学実習Ⅰ	血液浄化装置に関する操作および基本的な保守管理が出来るようになる。	2前	60	2			○	○		○		○
73	○			生体機能代行装置学実習Ⅱ	体外循環装置に関する操作および基本的な保守管理が出来るようになる。	2後	60	2			○	○	○	○	○	
74	○			生体機能代行装置学実習Ⅲ	呼吸療法装置に関する操作および基本的な保守管理が出来るようになる。	3前	30	1			○	○		○		
75	○			生体機能代行装置学演習	血液浄化、体外循環、呼吸療法、それぞれの機器について総復習し理解を深めるとともに、生体機能代行機器を実践的に扱うことができるようになる。	3後	45	1		○		○	○	○		
76	○			医用機器安全管理学Ⅰ	各種エネルギーの危険性、安全基準、電気的安全性の測定、安全管理技術、システム安全、医用ガスの安全管理についての知識を習得する。	2後	30	1	○	△		○		○		
77	○			医用機器安全管理学Ⅱ	各種エネルギーの危険性、安全基準、電気的安全性の測定、安全管理技術、システム安全、医用ガスの安全管理についての知識を習得する。	3前	30	1	○	△		○		○		
78	○			関係法規	医事法規概説、臨床工学技士法、関連法規、医療過誤等についての知識を習得する。	2後	15	1	○			○		○		
79	○			チーム医療論	臨床工学技士と他の医療従事者との緊密な連携について理解を深め、医療の実践に活かせるようになる。	3後	15	1	○			○	○	○	○	
80	○			医用機器安全管理学実習	電気的安全性および医用ガスの安全性に関する種々のチェッカーを利用した保守点検を行うことが出来る。	1前	30	1			○	○		○		○
81	○			ME安全技術演習	医用機器学概論で学んだ範囲のME機器安全について、第2種ME検定の問題解説や演習を通して標準的理解度をはかり、その実力を養う。	2前	30	1		○		○	○	○		
82	○			医用機器安全管理学演習	医療機器安全管理学を総復習し、臨床工学技士に必要な知識を習得及び医療現場の実践で活用できるようになる。	3後	30	1		○		○	○	○		
83	○			臨床医学総論Ⅰ	臨床工学技士の業務に必要な呼吸器学、循環器学、腎臓・泌尿器学、等についての病態および治療法等を外科的な基礎知識を習得する。	2前	30	2	○	△		○	○		○	
84	○			臨床医学総論Ⅱ	臨床工学技士の業務に必要な代謝・内分泌学、消化器学、血液学、神経病学等についての病態および治療法等を外科的な基礎知識を習得する。	2後	30	2	○	△		○	○		○	

85	○			臨床医学総論Ⅲ	臨床工学技士の業務に必要な麻酔・集中治療学、滅菌・消毒学その他のトピックス的な治療法についての知識を習得する。	3前	30	2	○	△		○	○		○	
86	○			臨床医学総合演習	臨床医学総論の総復習と、臨床工学技士に関連する臨床医学の知識を応用できるようにする。	3後	30	1			○	○		○		
87	○			臨床実習前演習	臨床実習に必要な臨床技術に加え、態度や姿勢、および接遇について学び、実践できるようになる。	3前	30	1			○	○	○	○		
88	○			臨床実習	血液浄化業務、集中治療室および手術室業務、医療機器管理業務、その他等、6週間の病院実習を実施し基本的な技術と知識を習得する。	3前	##	6			○		○		○	○
89	○			国際臨床工学概論	異文化にふれるとともに、海外の医療の現状、技術について学び、医療人としての国際的な感覚を習得する。もしくは、学内にて演習を行い習得する。	2後	30	1	○	△		○	○	○	○	○
90	○			プレゼンテーション演習	課題研究の内容について、聴者にわかりやすく発表できるようになる。発表の組み立て、内容、方法など発表の一通りのスキルを身につける。	2後	15	1		○		○		○		
91	○			課題研究	臨床工学分野の課題テーマを選択し、研究の姿勢、手法を習得し、将来の業務に役立てることが出来る。	2通	##	5		○		○	○	○		○
92	○			ME機器探求Ⅰ	図書、文献、インターネット等を活用し、興味のあるME機器について、調べ学習し、その内容を発表することで、基礎知識の必要性を実感できる。	1前	30	1		○		○		○		
93	○			ME機器探求Ⅱ	図書、文献、インターネット等を活用し、興味のあるME機器について、調べ学習し、その内容を発表することで、基礎知識の必要性を実感できる。	1後	30	1		○		○		○		
94	○			医学と工学の基礎演習Ⅰ	1年生前期に行われる専門基礎科目について、その理解度を模擬試験で測り、解説とノートのまとめにより知識を習得する。	1前	30	1		○		○		○		
95	○			医学と工学の基礎演習Ⅱ	1年生後期に行われる専門基礎科目について、その理解度を模擬試験で測り、解説とノートのまとめにより知識を習得する。	1後	30	1		○		○		○		
96	○			臨床工学の基礎演習Ⅰ	2年生前期に行われる専門科目について、その理解度を模擬試験で測り、知識を習得する。	2前	30	1		○		○		○		
97	○			臨床工学の基礎演習Ⅱ	2年生後期に行われる専門科目について、その理解度を模擬試験で測り、知識を習得する。	2後	30	1		○		○		○		
98	○			国家試験演習	臨床工学技士国家試験の過去問題を用いた10回の実力テストを実施し、時期毎の進捗状況を確認しながら国家試験に合格するための実力を習得する。	3通	45	2		○		○		○		
99	○			専門職連携	臨床工学技士の業務を取り巻く、他種職に対して理解を深め、連携した業務運営ができるようになる。	2後	30	1		○		○		○	○	
100	○			キャリア実践Ⅰ（設計）	実際に働いているキャリア臨床工学技士より講演してもらい、学生自身の将来像を明確にすることができる。	1前	30	1		○		○		○		
101	○			キャリア実践Ⅱ（設計）	学生自身が働いているイメージを想像し、現在学んでいる知識の必要性について実感することができる。	1後	30	1		○		○		○		
102	○			キャリア実践Ⅲ（開発）	3年生を目前にし、就職活動に必要な履歴書、自己紹介などの書き方について学び、実際の就活に活かせるようになる。	2後	15	1		○		○	○	○		
合計					102　科目			129(3435) 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	所定の科目のすべてに合格し、かつ出席率が90%以上であること。	１学年の学期区分	前後 期
履修方法：	試験の素点、小テスト、実習実技、レポート、出席状況等の総合評価	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。